

| | |
|---------|--|
| 氏名 | 田 水 敦 子 |
| 授与した学位 | 博 士 |
| 専攻分野の名称 | 医 学 |
| 学位授与番号 | 博甲第 2414号 |
| 学位授与の日付 | 平成14年3月31日 |
| 学位授与の要件 | 医学研究科内科系放射線医学専攻 (学位規則第4条第1項該当) |
| 学位論文題目 | The usefulness of serum thyroglobulin levels and Tl-201 scintigraphy in differentiating between benign and malignant thyroid follicular lesions (濾胞性甲状腺病変の良悪性鑑別における血清サイログロブリン と ²⁰¹ Tlシンチグラフィの有用性の検討) |
| 論文審査委員 | 教授 榎野 博史 教授 小出 典男 教授 清野 佳紀 |

学位論文内容の要旨

穿刺吸引細胞診にて診断が困難な濾胞性甲状腺病変の診断方法の確立は重要な課題である。血清サイログロブリンとTl-201シンチグラフィの診断能を比較検討した。²⁰¹Tlシンチグラフィは、²⁰¹TlClを74MBq静注10分後に早期像、120分後に後期像を撮像し、視覚的評価と定量的評価を行った。ROC (receiver operating characteristic curve) 曲線下面積は²⁰¹Tlシンチグラフィでは0.95でTgの0.65より優れていた。

濾胞性甲状腺病変の良悪性の鑑別には²⁰¹Tlシンチグラフィのwashout patternに基づいた視覚的評価、定量的評価が血清サイログロブリンを用いた診断より有用であると思われた。

論文審査結果の要旨

本研究は濾胞性甲状腺病変の術前の良悪性診断において²⁰¹Tlシンチグラフィの視覚的評価に定量的評価を加えた washout pattern による診断方法を血清サイログロブリンの有用性と比較したものであるが、定量的評価を加えることにより血清サイログロブリンを用いた診断よりも有用であることを見出した。本研究は濾胞性甲状腺病変の良悪診断について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。